

令和6年度事業報告について

1. 当学園事業報告概況

令和6年度においては、グローバルなエネルギー・資源価格の高騰や円安等の影響により日常生活に密接する物価の大幅な上昇が見られる一方、生成AI等の新技術が急速に社会に浸透し、教育・ビジネスでの活用拡大と同時に著作権や情報流通・倫理の規制に関する議論が進む等、社会全体が大きな変革期にあります。また、教育業界においても、令和7年度からの私立学校法の一部改正、令和8年度からの学校教育法の一部改正を控え、大きな制度変更の過渡期にあります。

このような社会情勢の中、当学園は、令和6年2月に横浜市より、みなとみらい21中央地区60・61街区の事業予定者として選定され、令和7年1月に横浜市と基本計画協定を締結いたしました。その上で、横浜市との間で、2月には土地売買契約を締結し、同街区の開発事業関係者となりました。同街区においては、オフィス、ホテル、ミュージアム、商業施設から構成される複合施設が新設され、属性の異なる人たちの集まりによる多様な賑わいの創出と、観光・エンターテインメントを軸とする街づくりが計画されております。その中で、当学園は当該区において令和11年4月にIT・デザイン・エンターテインメント分野の学科が集約された岩崎学園みなとみらいキャンパス(仮称)の開学を予定しております。みなとみらい地区を当学園の新たな教育事業の拡張と位置づけ、引き続き経済界・産業界ひいては社会において需要の高い人材の育成に取り組みながら、岩崎学園みなとみらいキャンパス(仮称)を中心に、安定的な学生確保ができる、選ばれ続ける学園を目指していきたくと考えております。

また、令和6年度には当学園組織の機構改革を行い、専門学校、大学院大学、保育園、幼稚園及び放課後児童クラブを統括するマーケティング・教育事業創造本部を新設いたしました。これにより、学生募集を起点とした意思決定・レポートラインの徹底と「顧客(高校生、保護者、幼児、社会人学生等)が欲しい物」から逆算したマーケットイン型の戦略を推進し、学生募集の状況改善を果たすことができました。引き続きマーケティング・教育事業創造本部を中心に、各校縦割りや前例踏襲を排し、学園全体視点での最適化を図ってまいります。

当学園は創立100周年を目前に控える中、職員一人ひとりが常に若者と社会のニーズを汲み取りながら、「自分ごと」として物事を捉え、従来の慣例や常識にとらわれることなく、クリエイティブに社会と向き合っています。そして、学生、園児、児童、保護者の気持ちを大切にしながら、変わることなく「楽しさ」「わくわく」に溢れる教育サービスを提供してまいります。

2. 情報セキュリティ大学院大学事業報告概要

高度な情報セキュリティ技術者・管理者・研究者の継続的育成と研究推進に取り組みました。

中期事業計画：情報セキュリティ分野における高度な専門技術者、実務家と、創造性豊かな研究者を育成する。

- (1) 内部質保証の一環としての認証評価申請を通じた教育・研究活動の検証
教育・研究活動の自主的な改革と一層の充実・発展を図るべく、令和5年度に受審した大学基準協会による実地調査による「適合」の評価結果を踏まえ、令和6年度は内部質保証に関する各組織の役割と手続き等の改訂を実施いたしました。令和7年度の全学的な自己点検・評価と外部評価に向けた取り組みを進めてまいります。
- (2) 国家の情報セキュリティ分野における技術開発と政策支援
国家の成長・政策の基盤となる人材育成に係る教育改革が推進されるなか、後藤厚宏学長・教授が引き続き担当するサイバーセキュリティ戦略本部員として国家の最重要課題のひとつである情報セキュリティ分野の教育・研究に取り組みました。また、重要施策である「経済安全保障重要技術育成プログラム」においては、令和7年度より新学長に就任する桑名栄二教授が「先進的サイバー防御機能・分析能力強化」に参画する等、国家の安全保障への寄与を強化してまいります。
- (3) 産官学連携による教育・研究活動の推進と幅広い人材育成ニーズへの対応
大学間連携・産学連携による「研究と実務融合による高度情報セキュリティ人材育成プログラム」(ISSスクエア)の代表校として、当該分野における大学院レベルの教育プログラムの一層の充実・発展に努めてまいりました。併せて、文部科学省のプログラム「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(e n P i T)」での成果を活かし、大学院生向け、学部生向け、社会人向けそれぞれの同プログラムについて、連携大学とともに継続してセキュリティ人材育成を推進してまいりました。特に社会人向けプログラムとして、経営層を対象として試行的に開講した新規コースが好評であり、幅広いリカレント・リスキリングニーズへの対応強化に努めてまいります。
- (4) 工業高等専門学校との連携・推進による学生の確保
当学園グループの中期事業計画における重点戦略の一つである「高度専門人材の育成」を踏まえた全国の工業高等専門学校との連携の推進、政府機関・産業界・リスキリング市場等への情報発信の強化を通じ、アドミッションポリシーに適合した学生の確保に努めました。引き続き、社会人学生の潜在ニーズの掘り起こしに向けて抜本的な取組みを進めてまいります。

3. 専門学校事業報告概要

専門学校教育を通じて産業界の多様なニーズに即した学科改編と技術者の育成及びキャリア教育・職業教育の実現実行を踏まえた教育課程の再編に取り組みました。

中期事業計画：最新の実務の知識や技術と社会的自立のための基盤となる能力を身につけられる教育課程を編成し、発想力豊かな職業人を育成する。

- (1) 社会の変化を踏まえた教育課程の再編
デジタルコミックの市場規模の急拡大とそれに伴う漫画クリエイター等の新しい人材ニーズを踏まえ、令和7年度から横浜デジタルアーツ専門学校に開設する「漫

画・イラスト科（４年制）」の学生募集やカリキュラム開発を推進し、開設初年度から定員を上回る入学者を確保することができました。また、令和８年度から、トップレベルのファッションクリエイターを育成する横浜fカレッジの「ファッションクリエイター科（４年制）」、保育士のみならず、小学校教員及び子供関連産業でも幅広く活躍できる専門人材を育成する横浜保育福祉専門学校の「教育こども学科（４年制）」を開設するためにカリキュラム設計や教員の採用等の準備を推進いたしました。

(2) マーケットインの考え方に基づく各種行事・イベントの再構築

令和６年度からの機構改革により各専門学校がマーケティング・教育事業創造本部の直轄となりました。この新体制を活かし、従来は各専門学校単位で企画・実施していた各種行事やイベントを学生目線で学校ごとの縦割りを排し再構築を進めました。令和６年度は横浜fカレッジの「Fashion & Beauty LIVE」に横浜デジタルアーツ専門学校の学生がライブパフォーマンスでコラボレーション参加することで音楽の演出を強化しました。また、令和７年度から情報科学専門学校の「ISCプログラミングコンテスト」を横浜デジタルアーツ専門学校との共催によるゲーム、AI、デザイン、ITの総合コンテスト「JOYコン！2025」にリニューアルするための企画・体制整備も推進いたしました。

(3) 専門学校7校の特徴的な取り組み

①情報科学専門学校

先端ITシステム科を中心にeスポーツのプロチームとの連携や東京ゲームショウへの参加を通じてゲーム業界への知見を深めました。また、情報セキュリティ学科の学生が「第62回技能五輪全国大会」ウェブデザイン職種にて銅賞を受賞、情報セキュリティ学科と実践AI科の学生によるチームが「学生ITコンテスト2024」のITプロダクツ部門にて部門1位となる優秀賞を受賞する等、学内に留まらない活躍を見せました。

②横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校

横浜スポーツ&医療ウェルネス専門学校への校名変更及びスポーツ系学科を開設し、初年度から横浜ビー・コルセアーズユースチームや横浜エクセレンス、ジークスター東京における現場実習、ゴールドジムやジェクサーとの連携授業を実施する等、学生の就職も含めたスポーツチームやスポーツ関連企業との連携強化を推進いたしました。

③横浜fカレッジ

横浜高島屋65周年記念イベントのフィナーレとして開催された「YOKOHAMA MIRAIにつなぐファッションショー」に参加いたしました。また、美容系学科の学生が「第42回神奈川県美容技術選手権大会」のスチューデントオールウェーブセッティング競技で1位から3位を独占、「TONI & GUY JAPAN STUDENT IMAGE OF THE YEAR 2024」で3位入賞を果たす等、成績をおさめました。

④横浜デジタルアーツ専門学校

神奈川県や企業との産学連携に留まらず、「第9回アフリカ開発会議」ロゴマークへの総合デザイン科の学生の作品の採用をはじめ、CG科学生の作品が「WHO'S NEXT? 2024 Ver. 02」キャラクター部門2位、グラフィック科学生の作品が「第3回GALLERYIAイラストコンテスト」カッコイイ×スタイリッシュ部門優秀賞等、全国規模のコンテストでも実績を残しました。

⑤横浜リハビリテーション専門学校

連携協定を締結している横浜市スポーツ医科学センターや横浜市脳卒中・神経脊椎センターから招聘した非常勤講師による授業や作業療法学科における「eアクティビティ」の授業においてeスポーツを取り入れた作業療法を学習する等、臨床現場における実践的かつ最先端の知識・技術を学べる教育を実施いたしました。

⑥横浜保育福祉専門学校

1年生全員が当学園の認可保育園3園において園児と交流する「1年次ふれあいインターンシップ」を実施することで、早期から保育の楽しさや実習への不安軽減を図りつつ、実習日誌のIT化の試験導入及び準備を実施しました。令和7年度からはクラウド型の保育実習支援システムの導入により、実習における教育効果の向上と学生のITリテラシーの向上を進めてまいります。

⑦横浜実践看護専門学校

学生の専門知識・技術の涵養と国家試験の合格率の向上を目指して積極的に特別講習を実施いたしました。また、令和6年度からは学生が主体となり、上級生が下級生に指導する「ナースのひよこクラブ」が立ち上げられ、全学的に教え合い、学び合う姿勢が醸成されました。その結果、国家試験の合格率が全国平均を上回る95.8%となりました。

(4) 職業訓練の受託及び実施

当学園は、人材育成機関として国の施策・地方公共団体の施策に積極的に参画しております。令和6年度は、神奈川県立東部総合職業技術校が実施する再就職支援訓練講座（公共職業訓練）5コースを新横浜1号館で、神奈川県労働局が実施する求職者支援訓練3コースを横浜西口3号館で開講いたしました。

(5) 特定非営利活動法人NPO情報セキュリティフォーラムの活動支援

特定非営利活動法人NPO情報セキュリティフォーラムの啓発普及・教育活動等を支援してまいりました。

4. 保育・幼児教育事業報告概要

認可保育園3園、附属幼稚園2園及び放課後児童クラブ3クラブについて一層の保育・幼児教育事業の充実に取り組みました。

中期事業計画：きめ細かい保育・幼児教育を実践し、安全・安心な教育環境の提供と保護者サービスを充実する。

(1) きめ細かい保育・幼児教育の実践と安全・安心な教育環境の提供

保育士・幼稚園教諭・放課後児童クラブ支援員一人ひとりが園児及び児童の気持ちに寄り添いながら、きめ細やかな保育・幼児教育と地域に開かれた子育て支援を実施してまいりました。併せて、安全・安心な教育環境を整備しながら、園児及び児童が楽しくわくわくしながら登園できる園づくりを進めてまいりました。

(2) 認可保育園・附属幼稚園における安定的な園児獲得に向けた取り組み

①課外活動の充実

認可保育園3園において英会話教室とダンス教室を実施しておりましたが、令和6年度は園児及び保護者の希望を踏まえ、新たに体操教室を開講いたしました。引き続き、課外活動の更なる充実を通じて、園児と保護者の満足度向上を進めてまいります。

②小規模保育事業所(0歳児から2歳児)との交流と満3歳児の受け入れ

認可保育園3園及び附属幼稚園2園では、近隣の小規模保育事業者と提携し、同事業者を卒園した園児の受け入れや、園相互における交流を図ってまいりました。また、附属幼稚園2園では、満3歳児の早期受け入れを実施し、より安定した園児数の確保と幼稚園運営に取り組んでまいりました。

③幼稚園の強みの整理と広報強化

学園の総合教育アドバイザーである脳研究者の池谷裕二氏(東京大学・大学院薬学系研究科教授)の協力を得て、教育ノウハウの整理・形式知化に取り組みました。「遊

「学び×楽しい」をコンセプトにWebページのリニューアルやデジタルパンフレットの制作も進めており、令和7年度前半に公開する予定です。

(3) 放課後児童クラブの活動

①児童の成長を促す教育（成長プログラム）の展開

当学園が開発した児童の成長を促す教育（成長プログラム）を子どもたちの意見も取り入れながら、効果的に実施いたしました。

5. 学園本部事業報告概要

当学園では、教職員自らが主体的に法人運営に参画する意識の醸成を図り、当学園が推進する高等教育事業及び保育・幼児教育事業に従事することに誇りと責任を持ち、常にチャレンジしていく法人運営を強力に推進してまいりました。

中期事業計画：柔軟な発想力と新しいことを学び続ける姿勢を持って楽しい教育サービスを提供していくための法人運営を推進する。

(1) 機構改革を活かした教育・学生募集業務の全体最適化推進

令和6年度より大学院、各専門学校、幼児教育部門をマーケティング・教育事業創造本部の下に位置付け、各校への直接の指示命令系統とレポートラインを明確化しました。同時に、これまで各校で独自に推進していた「ブランディング」「競合調査」「産学連携」「DX推進」「学生募集戦略策定」等の機能をマーケティング・教育事業創造本部に集約することで生産性の向上を実現しました。また、教育や学生募集に関する各種の取組成果を具体的に指標化し、四半期ごとに理事長及び経営管理委員会同席のもとでマネジメントレビューを行うことで、短いスパンでの取組の見直し・最適化を実現することができました。

(2) 「岩崎学園みなとみらいキャンパス(仮称)」開設に向けての基盤整備

令和11年度の「岩崎学園みなとみらいキャンパス(仮称)」開設に向けて、既存学科の再編及び学科新設に関するロードマップの作成に着手いたしました。市場動向や競合分析も踏まえてブラッシュアップし、令和7年度より順次着手してまいります。また、これまでにない魅力あるキャンパスの空間デザインを実現するため全学的な特命ワーキンググループを組織し要求仕様の開発を進めております。

(3) 働き方支援制度の拡充と働き方改革の推進

家庭を持ちながら働く子育て世代の負担軽減や全ての職員一人ひとりが健康的かつやりがいを持って働けるよう働き方支援制度の拡充準備を推進してまいりました。令和7年度からは「育児・介護における在宅勤務制度の新設」「家族のための休暇の新設」「健康維持管理・増進のための休暇新設及びサポート体制構築」等を開始いたします。

(4) 安定的な経営基盤の維持

大学院大学、専門学校における教育研究活動及び認可保育園、幼稚園等の保育・幼児教育活動の適正な遂行並びに安定的な経営基盤の確立に向け、健全な経営体質の強化に継続して取り組んでまいりました。

以上